

## 8-4-1 統括技術委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 委員会の開催

6回開催（偶数月）

開催しない奇数月もメール等を活用し、協議と情報交換を実施した。

#### (2) 未来塾検討テーマへの対応

##### a) プロポーザル拡大に向けた対応

多様化・複雑化する業務のプロポーザル化の具体策を協議し、新たな運用案についても意見照会している。斜め象限図以外の活用はほぼ受け入れていただいているが、来年度も運用状況を確認し、協議を継続する。

##### b) 施工計画・仮設設計における課題対応

個別協議にて確認した好事例の特記仕様書や運用を共有しながら、協会内部へ周知継続していく。来年度は、特記仕様書等の運用状況を確認・調査し、運用改善の要望を実施していく。

##### c) 施工条件明示チェックシートの運用

関東支部、関東地方整備局と運用に向けた活動方針について協議を行い、その後関東支部から関東地方整備局に橋梁詳細設計業務への導入に係る要望書が提出された。今後、実際の橋梁詳細設計業務において、導入に向けた試行が開始され、導入効果の検証と、他工種への拡大方策の検討を行う。関東地方整備局における試行では、「工事発注時チェックシート」として運用予定。

##### d) DX 推進について

街・地域づくりのDX推進について、まちづくりに貢献できるDX技術、国内事例・海外先進事例を調査し、その成果を協会HPに公開した。今後は、スーパーシティやスマートシティなどの取組みを参考に、関連分野におけるDX推進やデータ利活用のあるべき姿を設定していく。

#### (3) テーマ設定型技術公募への対応

新技術活用促進を目的としたNETIS活用方

式の1つである「テーマ設計型（技術公募）」に対し、昨年度の内容を見直し、選別した。

#### (4) 国総研・土研との意見交換会の開催

統括技術委員会（専門委員会含む）の活動実績や今後の共同研究に関する具体案等の話題提供を行った。国総研・土研それぞれとDX推進の取組について情報交換を行い、新技術活用やBIM/CIM納品化の検討を行った。

#### (5) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

現歩掛の実業務への影響も踏まえ、緊急性・重要性の高い道路設計（道路予備設計）と橋梁設計（橋梁予備設計・橋梁詳細設計）の改定を提案している。また今回選定した提案項目以外でも、今後、改定（改善）提案が必要と考えられる項目も提案していく。

#### (6) 統括技術委員会の横断的活動（主要事項）

a) 国総研研究評価委員として、国総研研究に対する意見具申を行った。（年2回開催）

b) 各WG（生産性向上、維持管理対策、業務体系、公益活動、業務研究発表会、新しい生活様式の道路空間）の活動を実施した。

c) 「業務研究発表会」の企画・運営に参画し、令和4年9月13日にオンライン開催にて実施した。（論文応募数90編）

d) 雑誌「土木施工」の編集委員への参加

e) 創立60周年記念講演会準備専門委員会

### 2. 次年度の活動について

(1) 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動

(2) 分野横断的な諸テーマの検討

(3) 技術部会からの指示事項の検討

(4) 3技術委員会からの要望検討、上位機関への上程

(5) 業務研究発表会開催と他行事の対応・支援

(6) NETIS 関連の対応

(7) RCCM 自主学習・教材の作成・更新

(8) 国交省等調査への対応

(9) 土研、国総研との技術交流

(10) 白書・対外活動への支援、他

（統括技術委員会委員長 菅原 正道）